

「松中深志山岳部創部90周年記念誌」原稿

## 山への想いを生涯の糧に——祝辞に代えて

深志同窓会会長・松中深志山岳部OB会副会長 中嶋 嶺雄

二〇〇八年は松本深志高校山岳部が旧制松本中学の山岳部としてスタートして以来、九〇年の歴史を刻んだ記念すべき年だという。慶賀に堪えないことであり、心からお祝い申し上げたい。

松本深志高校としては、昭和四二(一九六七)八月、西穂高岳集団登山の途次、独標付近で被雷して多数の生徒が死亡するという忘れることのできない悲劇に遭遇したが、山岳部の活動はこの悲劇に耐えて継続し、今日に至っている。しかも多くの大学や高校の山岳部が部員不足で相次いで廃部をよぎなくされているというのに、わが深志山岳部は現役生の入部も相次いでいて、OB・OGとの連携も良く、九〇年の歴史と伝統をしっかり引き継いでくれている。

松中深志山岳部OB会の皆さんの山岳部への熱い思いも大変貴重なものであり、その一端は会報『深山りんどう』にも現れているが、岳人としての誇りをもって、それぞれの場で活躍されながら、山への想いを生涯の糧としていてくれる。

社会の変化がめまぐるしく、パソコンや携帯電話が便利な時代であればこそ、ときには山に登って大自然に溶け込み、自分を見つめ直す時間をとりたいものである。私自身も、多忙なスケジュールの合間を縫って、年に一、二回は山に登ることを心がけている。体力の衰えは争えず、標準時間の二、三倍はかかるけれど、去年は六月の梅雨晴れの時期に、徳本峠経由、霞沢岳のジャンクション・スタジオまで行って、明神、穂高の絶景を満喫した。

最近OB会の会合にも出られないことが多く、ご無礼を重ねているけれど、山への想いは皆さんと共有していると信じている。